

## 脳梗塞の前ぶれ

芳野病院 脳神経外科  
副島 徹  
若松区本町2-15-6  
TEL . 751 - 2606

56歳のAさんは健康診断で血圧が高いと指摘されていましたが、元気で何も症状がないため治療を受けていませんでした。ある日、会議中に急に舌がもつれ言葉が喋りにくくなりましたが、約5分後にはいつも通りに話ができるようになりました。このようなことが一月に2回繰り返した後、言葉が出なくなり右手も重くなり私どもを受診しました。当日の頭部CT検査では異常を認められませんが、脳梗塞として薬の内服と点滴治療を始めました。幸い多少舌がもつれるだけで、右手の脱力も軽くて済みましたが、入院している間の検査で脳の太い血管が非常に細くなり、その血管の支配領域の脳血流が低下していることがわかりました。約1ヶ月後に脳血管のバイパス術を受け、順調に経過して退院し、現在は脳梗塞再発防止の薬と高血圧症の薬の内服を続けながら仕事をしています。

脳卒中の多くはそれまで元気だった人が突然発病し、運動麻痺や言葉が出なくなるなど色々な症状のため生活が不自由になったり、命を失う病気です。しかし、時にAさんのように短時間症状が出ては消える「一過性脳虚血発作」と言われる状態が脳梗塞の前ぶれとして起こることがあります。多くは数分以内、時に24時間以内に症状が消えてしましますが、繰り返している間に元に戻らなくなり、あるいは症状がひどくなり本格的な脳梗塞になります。適切な治療で重篤な状態をある程度防ぐことができますので、これを見逃さないことが大切です。一過性脳虚血発作の症状としては、脳血流が低下する場所により色々ですが、言葉が出なくなる、舌のまめりが悪くなる、片方の手足の力が入らなくなる、力が入るがうまく動かない、手足の感覚がなくなる、両目の見える範囲が狭くなるなどが知られています。又、一過性脳虚血発作とは違いますが、「一過性黒内障」と言われる一時的に片方の目が見えなくなる症状も脳梗塞の前ぶれの一つとして知られています。

脳卒中の多くは脳血管の動脈硬化が原因です。動脈硬化は高血圧症や糖尿病、高脂血症その他の生活習慣病があれば、それだけ早く進行すると言われています。生活習慣病が発見された場合には、早い時期から生活指導や治療を受けて正常な状態を維持することが大切です。また、もし上に挙げたような症状が出た場合には、できるだけ早く専門医を受診して適切な治療を受けましょう。